

長安汽車、車部品で日本企業と連携 中小にも門戸

【重慶=大越匡洋】中国の国有自動車大手、重慶長安汽車は自主ブランド車で日本企業からの部品

調達を本格化する。来年6月に60~100社の日本企業を招いて技術品評会を開き、新型車の開発段階から加わる部品メーカーを募る。日本の完成車メーカーと取引実績のない中小企業にも門戸を開く。技術力のある日本企業と連携し、自主ブランド車の品質や開発力の大幅な向上をめざす。

長安汽車の自主ブランド車の研究開発や設計を担う「長安汽車工程研究総院」の趙会副院長が明ら

かにした。趙氏は技術品評会の狙いについて、「日本の中小企業の技術力は高い。協力関係を築く機会にしたい」と話した。中国の有力国有企業が日本企業を対象に大規模な部品調達を試みるのは珍しい。

長安汽車では自主ブランド車の部品の半分程度を日本やドイツ、米国などの外資系部品メーカーから調達している。現在は1つの部品について3社の供給メーカーを指定し、入札で採用を決めている。今後、新たに日本の部品メーカーを調達先を選んだ場合には既存の取引先と入れ替える。調達先を選別する姿勢を鮮明にすることで、既存取引先にコスト削減を促す狙いもある。

日本企業からの調達分野は電子・機械部品や素材にとどまらず、省エネ・環境関連やインターネット、無人運転など次世代自動車に欠かせない部品や技術にも広げる。中国に生産拠点がなくない企業に対しては中国進出の支援を検討する。

スズキや米フォード・モーターと合併事業を手掛ける長安汽車の年間販売台数は約250万台。うち約100万台が自主ブランド車だ。昨年までは中国4位の規模だったが、多目的スポーツ車(SUV)などの自主ブランド車が好調で今年上半期は3位に浮上した。